

午後 II 試験

全問に共通して、自らの体験に基づき設問に素直に答えている論述が多く、問題文に記載してあるプロセスや観点などを抜き出し、一般論と組み合わせただけの表面的な論述は少なかった。一方で、実施事項だけの論述にとどまり、実施した理由や検討の経緯が読み取れない論述も見受けられた。自らが実際にシステムアーキテクトとして、検討し取り組んだことを具体的に論述してほしい。

問 1（非機能要件を定義するプロセスについて）では、どのような非機能要件を、業務及び情報システム両方の視点からどのようなプロセスで検討したか、それを第三者に説明する際にどのような工夫をしたかについての具体的な論述を期待した。多くの論述は具体性があり、実際に要件定義に携わった経験がうかがえた。一方で、業務との関連性が乏しい論述や、非機能要件の検討ではなく実現方法の検討に終始した論述も見受けられた。また、意思決定者への説明に関する工夫を問うたにもかかわらず、説明した内容だけを述べており、工夫に触れていない論述も見受けられた。システムアーキテクトには、業務及び情報システムの両方の視点から非機能要件を含む要件定義を行い、それを分かりやすく第三者に説明することが求められる。要件の検討に加えて、検討結果を分かりやすく説明することも心掛けてほしい。

問 2（柔軟性をもたせた機能の設計）では、柔軟性をもたせるための設計と、対象にした業務ルールについての具体的な論述を期待した。多くの論述は、柔軟性をもたせるための機能の設計内容を具体的に論述していた。一方で、要求事項又は設計方針だけにとどまり、具体的な設計内容が不明な論述も見受けられた。また、その設計に当たって、開発コストを抑えるために実施した機能や項目の絞り込みについての論述を期待したが、設計内容と絞り込みとの関連が薄い論述も見受けられた。システムアーキテクトには、様々な変化や要望に対して、迅速かつ低コストで対応できる情報システムを設計する能力が求められる。現在の要望だけでなく、将来の変化も意識した設計を心掛けてほしい。

問 3（IoT の進展と組込みシステムのセキュリティ対応について）では、担当した組込みシステムに特有なセキュリティリスクを特定し、コスト・性能などとのトレードオフ及び当該組込みシステムの特徴を考慮した対応策から、システム設計の実戦的能力がうかがえる論述を期待した。全体的に適切に論述されているものが多かった。一方、既存のシステムのセキュリティ対策の説明にとどまっていたり、リスクの特定及び対応策が一般論に終始していたりする論述も見受けられた。組込みシステムのシステムアーキテクトには、IoT の進展に伴うセキュリティ対応を考慮した組込みシステムを構築する能力が求められる。組込みシステムのセキュリティリスクと不正利用防止の重要性に基づき、適切な対応策を講じられるように心掛けてほしい。